

国際青少年サイエンス交流事業 (さくらサイエンスプログラム) 2025年度事業・公募説明会

2025年3月19日(水) 14:00~15:00



科学技術振興機構

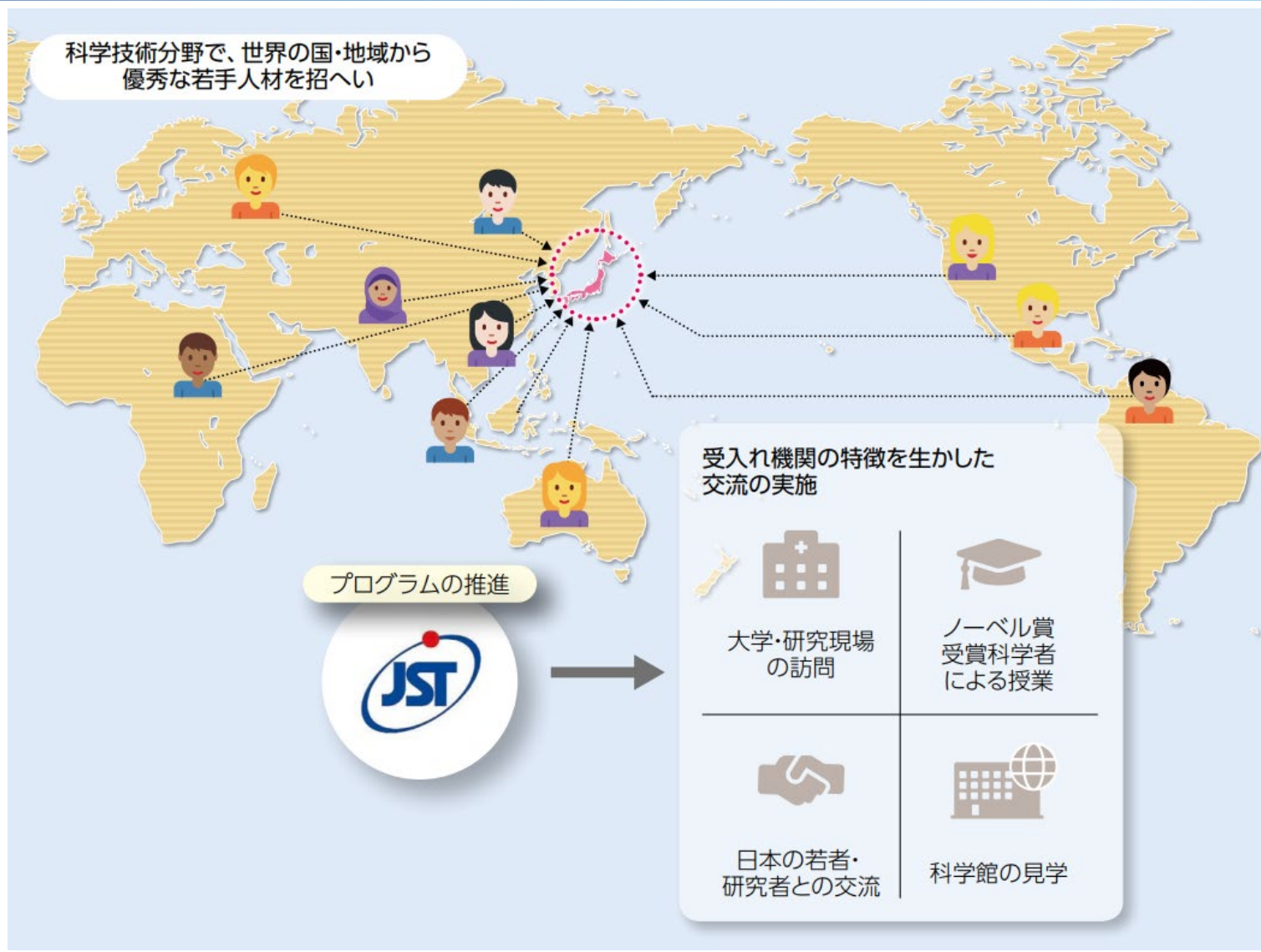
本日のタイムスケジュール

- 事業説明(10分)
- 公募に関する説明(30分)
- 事前質問への回答(15分)

本日のタイムスケジュール

- 事業説明(10分)
- 公募に関する説明(30分)
- 事前質問への回答(15分)

1. 新たな時代の社会を担う、世界の優れた人材へ



2. さくらサイエンスプログラムの目的

研究開発を促進しその成果をイノベーションにつなげることは、将来に向けた世界共通の課題です。科学技術振興機構(JST)は2014年に「さくらサイエンスプログラム」を開始し、海外の優秀な若者を日本に短期間招き、日本の先端的な科学技術に触れていただくなどを通じて、科学技術分野の国際的な交流事業を進めています。

- ① 科学技術イノベーションに貢献しうる優秀な人材の養成・確保
- ② 国際的頭脳循環の促進
- ③ 日本と諸外国・地域の教育研究機関間の継続的連携・協力・交流
- ④ 科学技術外交にも資する日本と諸外国・地域との友好関係の強化

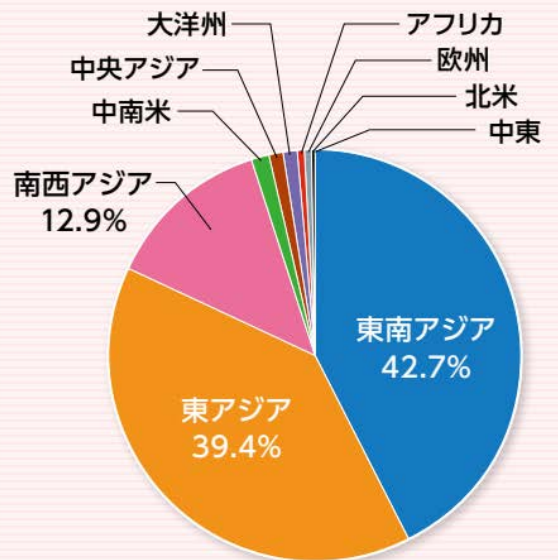
これらに貢献し、ひいては、日本及び世界の科学技術・イノベーションの発展に寄与することを目的とするものです。

3. 国・地域別招へい者数と事業予算

2014～2023年度で83か国・地域より計39,635名を招へい

2014-2023 国・地域別招へい者

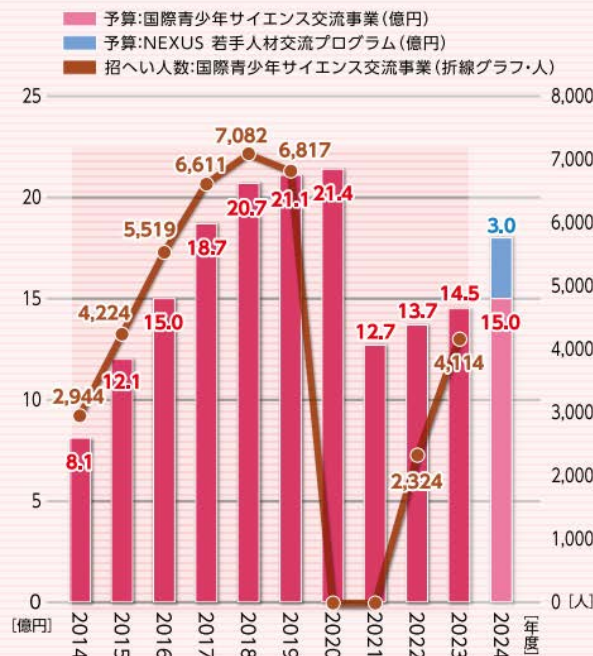
招へい者の地域別内訳



■ 2014年度～2023年度：計39,635人
■ 世界83か国・地域から招へい

2014-2023 事業予算と招へい者数



予算及び招へい人数
(コロナ前水準回復へ)



*NEXUS(日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業)
*新型コロナウイルス感染症の拡大により、2019年度は招へい人数が減少。
2020年度～2021年度は招へい実績なし。

※新型コロナウイルス感染症の拡大により、2019年度は招へい人数が減少、2020年度および2021年度は海外からの招へいは実施されていません。

4. さくらサイエンスプログラム推進本部で実施する公募プログラム

<p>さくらサイエンスプログラム</p> <p>インド、アフリカ諸国を重点国に設定。 公募においては重点国を推奨。</p> 	<p>Aコース 科学技術体験コース</p>	<p>日本の先端的な科学技術に触れる機会と日本の研究者・学生等との交流体験を通して、科学技術分野における継続的な交流を促進。</p>
	<p>Bコース 共同研究活動コース</p>	<p>国際共同研究のテーマや計画の策定、予備的な実験など共同研究を開始する、あるいは具体的な共同研究に参加。</p>
	<p>Cコース 科学技術研修コース</p>	<p>送出国・地域のニーズあるいは地球規模課題の解決に資する科学技術に関する具体的な技術・能力の習得の機会を提供。</p>
	<p>Dコース 相補的年間交流コース</p>	<p>これまで培った人材交流の基盤を活用し、機関間連携によるプロジェクトベースの相互交流を通じて、交流の深化を図る。 実施期間: 交流期間は原則1年間、招へい・派遣の最長期間は3ヶ月 対象国 : インド及びアフリカ諸国</p>
<p>日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業(NEXUS)</p> 	<p>若手人材交流プログラム (Y-tec)</p>	<p>日ASEANのこれまでの国際共同研究や人材交流等の取組を基盤とし、先端分野を含めた科学技術分野全般における相互交流(派遣、招へい)を支援。 実施期間: 交流期間は原則1年間、招へい・派遣の最長期間は3ヶ月 対象国: ASEAN10カ国</p>
<p>インド若手研究人材招へいプログラム(仮称)※</p>		<p>日印の共同研究に基づき、インドの大学等に在籍する大学院生・ポスドクターを招へいし、両国による共同指導を日本で実施するための研究滞在を支援。 実施期間: 最長1年間 対象国: インド</p>

※予算要求中のため予定

5. 一般公募招へい(ABCコース) 概要

日本の受入れ機関と海外の送出し機関が作成した交流計画を広く公募し採択します。2014～2023年度で約3,400件の交流プログラムが実施され、約32,000人の招へいが実現しました。

実施までのプロセス

日本と海外の機関が共同で
交流計画を作成し、JSTに申請



選考委員会を経てJSTが採択
JSTによる経費支援



プログラムスタート

一般公募招へい事業の種類

- A 科学技術体験コース
日本の先端的科学技術に触れる体験
(滞在は原則7日間まで)
- B 共同研究活動コース
共同研究テーマや予備的実験の
実施など
(滞在は21日間まで)
- C 科学技術研修コース
日本の先端的技術や能力の習得
(滞在は10日間まで)

6. 一般公募招へい(ABCコース) 概要

- 招へい対象：
40歳以下の学生、研究者、科学技術に係る業務に従事する方
- 対象分野：
科学技術(自然科学、人文科学及び社会科学)分野
- 受入れ機関：
日本全国の教育・研究機関、企業、地方公共団体、各種団体など
- 経費：JSTが必要経費*(渡航費・滞在費など)を支援
*企業が受入れ機関となる場合は、渡航費のみ
- 対象国・地域
次ページ参照

7. 一般公募招へい(ABCコース) 対象国・地域

➤ 招へい対象国・地域: **148カ国**



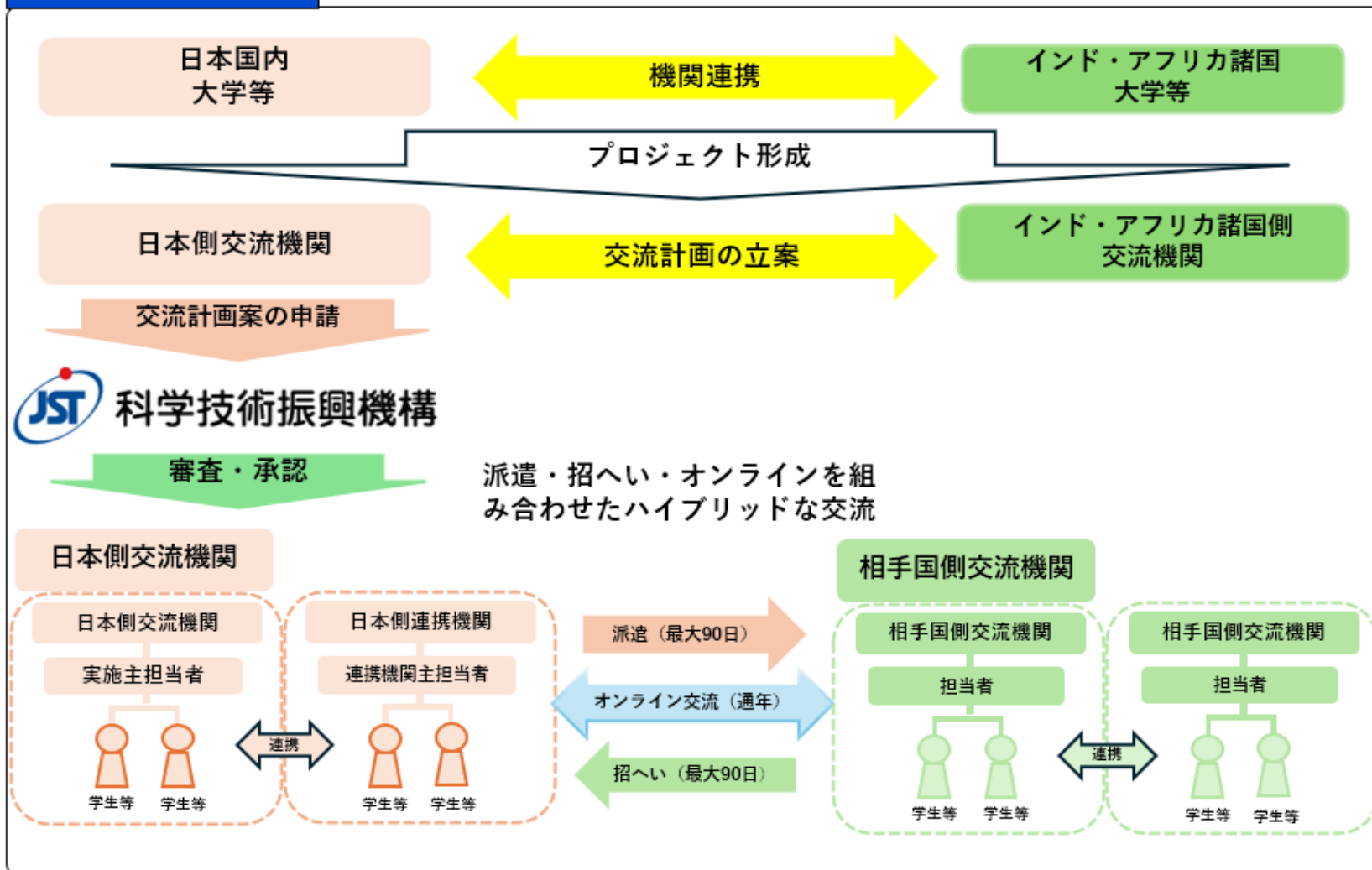
2025年度の重点交流国・地域

- ✓ 豊富な人材を抱え、AI等の高度人材の来日促進が今後の我が国の科学技術基盤形成の鍵となることが期待される**インド**
- ✓ 成長著しく、若い人材が豊富であり、日本にとって戦略的に重要な**アフリカ諸国**

※北米、欧州、オセアニア各地域(一部国・地域を除く)については、2025年度は対象外

8. 相補的年間交流コース(Dコース) 概要

基本的枠組み



8. 相補的年間交流コース(Dコース) 概要

- 対象国・地域: **インド・アフリカ諸国**
- 参加対象:
原則40歳以下の高等専門学校生、大学生、大学院生、ポスドクター、
科学技術に係わる教員など
- 対象分野: 科学技術(自然科学、人文科学及び社会科学)分野
- 交流方法・期間:
招へい・派遣・オンラインを組合わせたハイブリッドの交流
交流は通年(採択年度内)、派遣・招へいは最大90日/人
- 日本側交流機関および連携機関:
大学、高等専門学校、国立研究開発法人、独立行政法人、民間企業、地方公共団体、
公益または一般法人等の国内に法人格を有する機関
- 経費: JSTが必要経費(渡航費・滞在費など)を支援
1交流計画あたり直接経費、一般管理費の総額は700万円以内(基本額)

9. 直接招へい

JSTが受入れ機関となり特色ある招へいプログラムを立案し、特に優れた海外の若者を招へいします。2023年度までに7,425人を招へいしました。

ハイスクールプログラム

海外の優秀な高校生に、日本の最先端の科学技術紹介する機会を提供します。

- ✓ ノーベル賞受賞者などによる特別授業への参加
- ✓ 著名な日本の大学・研究機関の訪問
- ✓ 日本の高校生との交流
- ✓ 駐日外国公館の訪問

科学技術関係者招へいプログラム

海外の科学技術関係者を日本に招へいし、日本の科学技術行政、教育行政などについて理解を深めていただくことを目的に実施します。
海外と日本の大学関係者による大学交流会も実施しています。



科学技術関係者招へいプログラム：日本インド大学交流会（2020年1月）

10. 活動レポートご紹介

さくらサイエンスプログラムHP (<https://ssp.jst.go.jp/>)



The screenshot shows the website header with the Sakura Science logo and navigation menu. The '活動レポート' (Activity Report) link in the menu is circled in red. Below the menu, the breadcrumb trail reads 'JSTトップ > さくらサイエンスプログラム > 活動レポート'. The main content area features a search bar for '実施機関 (大学・学部名などを入力)' and filters for '区分', '対象国・地域', 'コース', and '年度'. A blue button labeled '検索' is positioned to the right of the search bar. Below the filters, two links are listed: '2024年度 活動報告' and '2023年度 活動報告', both with right-pointing arrows.

※ 2024年度の招へいの活動報告も順次公開中